羅府新報

(6)　2016年（平成28年）　3月3日（木曜日）

南加キリスト教教会連合

アメリカでの教訓

河野　亮平

私は1972年にアメリカに来たのですが、神さまの導きのもとに来たのです。最初は私が家族から離れて生活を始めました。その後、家族を呼んで、神学校へ再度行って、学びを続けました。学びながら、パートの牧師をしていたのですが、卒業の後、続けて、私は日系人の教会の牧師をしていました。

ある時、アナハイムの教会で牧師会がありました。会議の後、雨が降りそうになっていたので、古い車を走らせて急いで家に帰りました。その時に、思いがけないことが起こりました。

私の家に泥棒が入って、日本から持ってきた茶箱に私たちが大切にしている物を入れて運んでいるのを見かけたのです。私は車からすぐ降りて後を追いかけて泥棒を捕らえました。そして警察がするように後ろから彼を捕まえてナイフかガンを持っているかチエックしたのです。彼はびっくりして荷物を下ろしました。その後私は、当時としては考えられない行動をとったのです。いまでも絶対にしてはならない危険な行動をしたのです。

家内と子供が家にはいませんでしたので、泥棒が何回運んでいるかを確かめるために私は荷物を車に乗せて、彼も車に乗せて家まで戻り、応接間で話したのです。後で警察によくやったと言われましたが、同時に、二度とこのようなことをしないように注意されました。

とにかく、私は時間を稼ぐ必要がありました。家にいるときに電話で警察を呼んだら彼は何をするか分かりませんでしたので、電話をしませんでした。その後、家内が家に帰りましたので、日本語で家に泥棒がいるから隣の家に行って警察に電話をかけるように伝えました。警察は30分程で来たのですが、その間、泥棒と話したのです。彼は静かに私の話を聞いていました。子供も家に帰ってきたので、自分のものがなくなっていないか確認させました。大丈夫のようでした。泥棒が運んだのは1回のようだと分かりました。警察は泥棒を連れていきました。その後、指紋を採る警察が来て、また、警察の勤務評定のために来た時に私たちのものは全部返りましたので、泥棒を裁かないで下さいとお願いしたのです。でも、この泥棒は初犯ですから裁判にかける必要があるので許してもらえなかったのです。そのために、私も裁判所へ行きました。私には国の弁護士がついてくれ、弁護士は全部の証拠書類を持ってきて裁判が始まりました。ある意味で、かわいそうになりましたが、裁判は終りました。

ここから考えさせられたことをすこし述べたいと思います。どんなことがあっても自分で泥棒を捕まえることをしないことです。ボストン大学で博士号をとった私の友がパサデナの工科大学の博士の家に滞在していたときに、家に入った泥棒を捕らえて警察に連絡をしたのですが、警察が彼を捕らえた時、ズボンの下にナイフを隠していたそうで、危なかったと、私に話してくれたことがあります。読者も同じことを経験する時は絶対に自分で捕らえないようにしてください。

私たちが持っているすべての財産はやがては消えてなくなるのです。聖書の中に「目に見えるものは一時的であり、目に見えないものは永遠に続く」とあります。どんな素晴らしいものでもやがては消えて、なくなるものです。ですから、永遠に変わらない魂の救いを自分のものにすることが全ての人に必要であります。

どのようにしたら永遠の命が与えられるのでしょうか、神さまの前に自分の生まれながら持っている罪を悔い改めて、キリストを信じることが全ての方に求められるのです。私たちはこの地上に生かされている間、意味があるのです。アメリカに住んでいる私たちはお互いに注意しながら、助け合いながら、有意義に励んでまいりたいと思います。（ロスアンジェルス合同教会牧師）